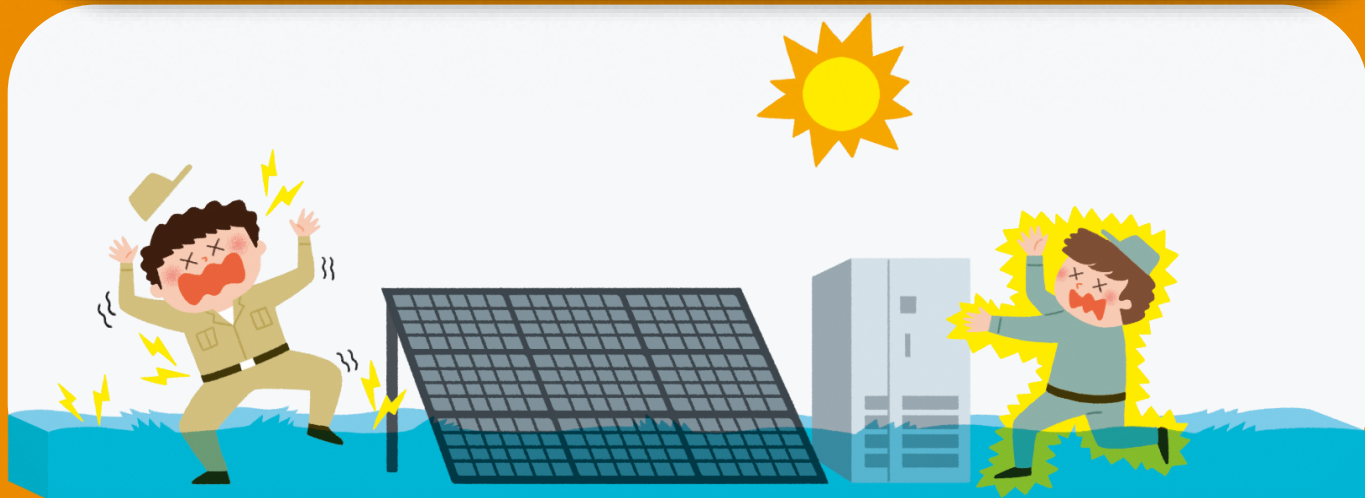


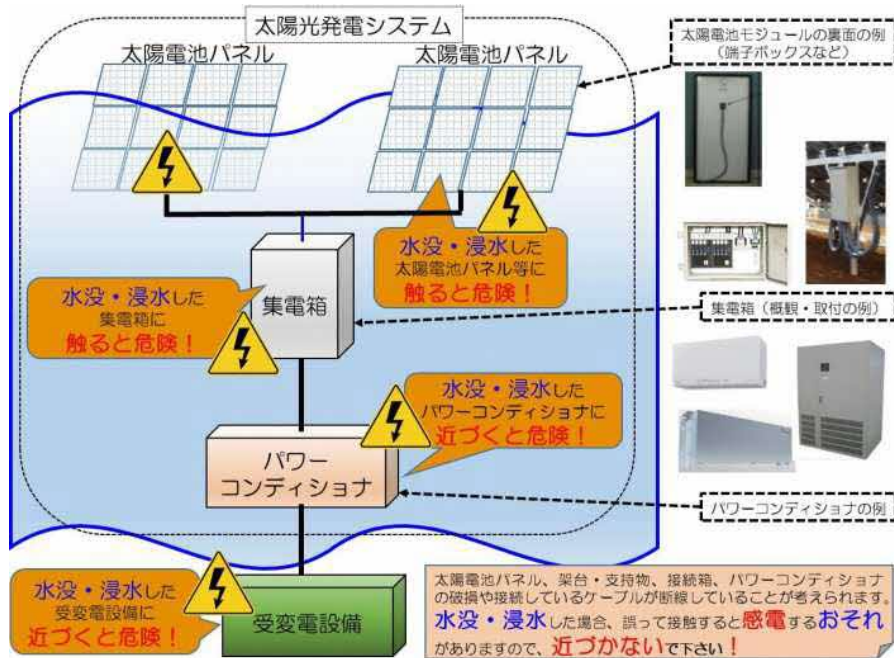
太陽光発電システムの 水害時の **感電**の**危険性**について



水害などで**水没・浸水**した太陽光発電システムに**接近**や**接触**することにより
感電する**おそれ**があります！

- 台風や大雨、局所豪雨の影響により、太陽光発電システムが**水没・浸水**し**破損**している場合があります。太陽光発電システムはこのような場合でも**光が当たれば300V以上の電気を発電**をします。
- 水没・浸水をした太陽光発電システムに**接近・接触**すると**感電**するおそれがあります。
- 風水害の被害にあった太陽光発電システムに**むやみに近づかず**に太陽光発電システムの**事業者や管理者へ連絡**してください。

水没・浸水した太陽光発電システムの感電の危険がある箇所



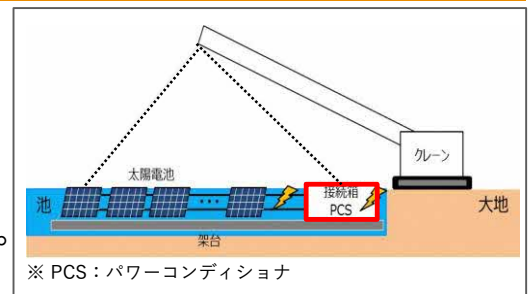
太陽光発電協会は、水害を想定して実際に太陽光発電システムを**水没**させ**漏電**などによる**感電の危険性**に関する**実験と測定**を行いました。

◆水害時の太陽光発電システムの感電リスク

の**把握**と**測定方法**の**検証**を行いました。

◇太陽光発電システムを実際に**池に沈め**各ポイントでの**漏れ電流の測定**を行いました。

◇漏れ電流を流さなくするためには**大地**との**電気抵抗**（絶縁抵抗）は大きい必要があります



水没実験の方法

今回は**感電の危険予防**のため**水が引いた後の経過測定**も行いました。

実験の結果、以下の**水害**による**感電の危険性**がわかりました。

- 水没・浸水**で**破損**した太陽光発電システムに近づく**非常に危険**です。
- 太陽光発電システムの**周囲が水に浸かり**、**誤って**太陽光発電システムや設備機器に**接触**すると**感電の恐れ**があります。
- 水が引いた後**でも、集電箱やパワーコンディショナの**大地との電気抵抗が小さく**なっており、**感電の恐れ**があります。
- 水没・浸水の後**はできる限り、**感電防止の処置**として太陽電池パネルと接続箱を**切り離す**ことを太陽光発電システムや電気設備に十分な知見を持つ**専門家へ依頼**してください。

- この資料に関するお問合せ先：一般社団法人太陽光発電協会（JPEA：TEL「ナビダイヤル」0570-003-045）
- JPEAホームページにも安全関連情報を掲載しています。（<http://www.ipea.gr.jp/document/handout/index.html>）
- この研究は国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の委託業務「太陽光発電システム効率向上・維持管理技術開発プロジェクト／太陽光発電システムの安全確保のための実証事業」の一環として実施しました。